



①



②



③

友禅染の祖とよばれる宮崎友禅斎は、1654年(承應3年)京都に生まれました。20代後半より扇面絵師として頭角を現し、その活躍は井原西鶴『好色一代男』の中でも、今の世の流行ものとして祐善(友禅)扇が通人の必携品であったことが紹介されています。知恩院前に住居を構え絵師として発展するに従い、染物にもその手腕を発揮し、生地の上に糊を置いて防染する糸目糊置という独自の染色技法や、輪郭や細部の線描写を豊かに表現した模様絵など、人々の好みに合わせた新しい意匠を次々と描いて提供したことで、友禅斎の染物は一世を風靡し、時代の寵児として名を馳せました。

のちに『余情雛形』『和歌物あらかひ』『可知名葉(梶の葉)』を刊行し、晩年は金沢に移り住んで技術指導に従事しながら余生を過ごした友禅斎は、1736年(元文元年)83歳でその生涯を閉じました。

宮崎友禅斎が生誕して本年度で360周年。友禅という名が模様染の代名詞となった友禅染は、現代においてもきものの代表的な染色技法として脈々と受け継がれています。友禅斎の功績を称え次々に継承するため、この記念すべき年に「宮崎友禅斎生誕360周年記念企画展～華麗なる友禅染の世界～」を開催致します。友禅斎の意匠への情熱とそれを受け継ぐ職人たちの技を、ぜひこの機会にご覧ください。

宮崎友禅斎生誕360周年記念企画展 ～華麗なる友禅染の世界～

「友禅斎ゆかりの史料」より

- 宮崎友禅斎自筆肖像画軸(江戸中期)写真①
- 黄檗山隠元禪師の像友禅染掛軸(江戸中期)写真②
- 可知名葉(梶の葉)(江戸中期)写真③
- 「古典友禅染作品」より
- 白縮緬地枝垂桜海老蘇鉄文様繡入小袖(江戸後期)写真④
- 萌黄縮緬地春雨遠山霞に雪持常盤木の松小袖(江戸後期)写真⑤
- 「現代友禅染作品」より
- 松皮取飛鶴吉祥文振袖(平成23年)写真⑥
- 慶長取幔幕に貝桶振袖(平成26年)写真⑦



④



⑤



⑥



⑦

友禅苑とは

知恩院三門南側にある友禅苑は、宮崎友禅斎が知恩院前に住居を構えていたという伝えにちなみ、宮崎友禅翁顕彰会が宮崎友禅生誕300周年を記念して昭和29年に改修造園しました。東山の湧き水を引き入れた庭園と枯山水の庭園とで構成され、深い緑のなかで日本の心を表した昭和の名園です。



【友禅染実演】職人による友禅染の実演

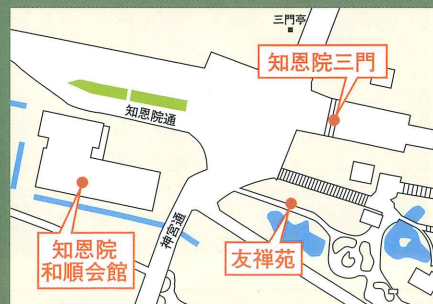
◎10月24日(金)～26日(日)10:00～17:00
10月24日は13:00～、10月26日は16:00まで。
ギャラリー和順内にて。

【友禅染体験】友禅の絵付体験

(会期中各日先着30名)
体験料：無料
※会期・場所は上記の通り。

総本山知恩院 和順会館

〒605-0062
京都市東山区林下町400-2
TEL:075-205-5013
FAX:075-205-5015



主催：宮崎友禅翁顕彰会

後援：京都府・京都市・京都商工会議所